

# ネットワーク連絡会 会議要旨

日時：平成19年7月18日(水) 午後6時から8時  
会場：しんじゅく多文化共生プラザ 多目的スペース  
参加者：23人

## ～ 開会 ～

区：【本日の議事の進め方の確認】

今回から新しく参加された方の紹介

A：昨年新宿区に事務所を移転しました。年間約3・400人の難民の方の生活支援等を行っています。よろしくお願いします。

区：難民支援という観点から、しんじゅく多文化共生プラザや文化国際課と連携してできることもあると思いますのでよろしくお願いします。

## ～ しんじゅく多文化共生プラザの実績報告について～

区：【プラザの利用人数や相談件数などを説明】

## ～ 平成19年度の多文化共生事業の報告について～

### (1) 多文化共生実態調査

区：【調査内容や進捗状況、今後の取り組みを説明】

### (2) 外国人の子ども学習支援等

B：【事業の経過と今後の取り組みを説明】

初めての試みなのでかなり大変です。でも子どもたちは楽しく熱心に勉強していますし、子どもたちが早く来て交流している場合もあります。だんだんと子どもたちの居場所になってきていると実感しています。また、各教室で学校のテストの点数が上がったという報告もありました。少しずつ成果が見えてきていると思います。ボランティアの方も積極的に参加してくれています。大久保地域の町会の方や教育委員会の方にも子どもたちが一生懸命勉強している姿を見に来ていただきたいと思います。

C：子どもたちのパワー、学習に対する熱心さを感じています。少しでも学力を伸ばしてあげたいと思っています。日本に来て、これまでとは違う環境で学習

していくハンディキャップの大きさに改めて気づかされました。言葉の壁は確かに存在するのですが、ただ通訳ボランティアで教えるのではなく、もっと日本語に則した基本的な部分を教えてから学校で勉強するということも必要だと思います。本来は学校でできれば一番効果的だと思います。

D : 主に研修、教材のバックアップをしています。これまでこういうノウハウは少なかったですが、インターネットや海外にいる日本人教員から情報を収集しています。新宿区日本語教室で親との接点はあるのですが、親は親の立場で日本語を勉強していますし、子どもは学習を通してこれから生活する足がかりをつかんでいきます。ひとつの家庭の中で違った視点から地域に向かっていく芽ができていくことで今後新しい考え方ができてくると期待しています。

区 : 週3回ずつ2つの会場で日曜を除いて毎日実施していますので、本当に大変だと思います。ボランティアの方の熱意には感謝しています。子どもに勉強を教えるだけでなく家庭環境まで考えてサポートしようとするボランティアの方の姿勢には学ぶべきことが多くあります。第1回目に参加したときは、子どもたちは席に座るのも大変な騒ぎだったのですが、7月になると、熱心に勉強している姿を見ることができました。大変意義のある事業だと思っています。

区 : ボランティアが少ないという現状もありますので、地域の方、活動団体、NPOの方など興味があれば見学に来ていただいて、スタッフとしてご活躍いただければありがたいと思っています。

### (3) 携帯用防災カード

区 : 【防災カード、配布場所の説明】

E : 外国人登録していない人にどう渡すかという問題もあります。また、そういう人は行政の人が持っていても受け取ってくるとは限りません。外国人同士のネットワークの中心人物に渡すなどの工夫が必要だと思います。さらに教会のような宗教施設に置くのも効果的だと思います。

F : 団体としても配布に協力はできます。教会、韓国式の寺、駅などに置くのがよいと思います。外国人にこのカードを携帯する必要があると認識してもらうように周知していく必要もあります。

G : ただ配るだけでなく、地震等の怖さやこのカードの必要性を伝えなければなりません。交通事故のときなども血液型がわかるだけでも有効です。また、日本語ができる外国人でもパニックになったときに日本語がでないこともあります。チラシなどを作成してカードと一緒に配布したり、防災訓練や防災の講座のときに配布して説明する必要もあると思います。

H :まずこのカードができたこと自体うれしく感じています。今後メディアを使って宣伝したり、インターネットでダウンロードできるようになるとよいと思います。保健所には子連れの方などの外国人が来るので置くとよいと思います。このカードは新宿区以外の人も使えるようにしたので多くの外国人に渡るようにしていきたいです。

I :7月27日にメディア連絡会があるので、そこで配布して周知することはできます。また、インターネットでダウンロードできるようにしたほうがよいと思います。

区 :防災カードのほかに、備蓄倉庫や避難所での多言語の表示物も大久保小学校以外に普及していきたいと考えています。ご意見等いただくことがありますのでよろしく願います。また、今年はフランス人が多く住む牛込地区で防災訓練を実施する予定であるという危機管理課からの情報提供がありました。

#### (4)ふれあいフェスタ 多文化共生コーナーの出展

区 :【ふれあいフェスタ多文化共生コーナーの説明と依頼】

#### (5)多文化共生パネル展

区 :【パネル展の説明と協力の依頼】

#### (6)新宿文化・国際交流財団の事業について

財団 :【児童・生徒の状況に関する調査についての説明と報告】

#### (7)その他

区 :【19年度多文化共生関連事業の説明】

区 :【目白大学シンポジウムの区長及びネットワーク参加者の参加について報告】

C :東京都国際化推進委員会は日本人と外国人半数で構成されています。今年度は外国人の方々の様々な場面への参加を市民団体との協働でどのように進めていくか検討し、答申を出しました。東京都の外国人関連の課題として外国人とのコミュニケーションの重要性、日本語習得等が挙げられています。民間団体の支援活動も活発に行われているなかで、国・都・区市と支援団体が協働していく必要がありますし、一方では国・都・区市がそれぞれの現状に合わせて事業を展開していく必要があるとされています。

ネットワークのメンバーからも3人委員がいますので、新宿区の現状や取り組みを説明しています。

財団 :現在東京都の外国人登録者数は約37万人です。今後も外国人の定住者が増えてくることを想定し、国、都、区市町村の役割を明確にしようとしています。

また、民間団体との連携・協働をもって外国人の社会参加を推進していくということです。その民間団体のなかには町会、自治会も含まれており、協働を進めたいと考えているようです。

区 : 7月中旬に、建築課と一緒に韓国関係の団体に行き、違法建築主に対する注意チラシの店舗への配布にご協力いただくよう依頼し、ご了解いただきました。

F : 団体としては、強制することはできませんが、違法建築主に対してチラシを渡すことにご協力できます。

## ～ 意見交換 ～

J : 協働で実施している子どもの学習支援の保護者会はどのような内容ですか？保護者側の学校や地域に対する意見や要望を聞く機会はあるのですか？

B : 主に学習支援の内容や方法についての説明をしています。

J : 韓国関係の団体からハングルの冊子が送られてくるのですが、できれば日本語の概要版をつけてほしいと思っています。そうすれば団体に対する理解も深められると思います。

F : わかりました。確認します。

E : 教育委員会で外国人の子どもに対しての事業を実施しているが、内容、時間数が十分なものとはいえないと思います。

区 : 総量として小中学生または大人に対しても、十分満足できるかということ、必ずしもそうでない部分はありますが、協働事業等でご支援いただいてフォローしております。また、大人の場合には区の日本語教室や民間の日本語学校で日本語を学習できますが、それに参加するためにどう繋いでいけるかというのも課題だと思っています。

K : 防災カードについてですが、「あなたの命を守るカード」と記載されていますが、内容を見るとそこまでのものか疑問に思います。たとえば大使館に連絡したいといっても、大使館の電話番号は記載されていないし、けがをしていますというのを見ればわかると思います。命を守るカードならばもう少し内容が足りない気がします。

I : この防災カードは名刺サイズで最小限必要な言葉が記載されていてよくできていると思います。大使館の電話番号については、新宿区の場合100以上の

国籍の方が住んでいることを考えると記載は不可能です。これ以上のものが必要という人は冊子を購入すればよいのではないのでしょうか。ある程度は自己責任が必要になってくると思います。

区 : 分科会でもいろいろな意見が出ました。携帯できるサイズで最低限の必要な言葉を入れてみました。そのなかでいつまでも検討しているのではなく、まずは形にしてみようという結果になりました。今後様々な意見を集約して修正版を作成したいと思っています。

L : 外国人の中には在留資格なしの人もあります。パスポートを持っていない人、脱北者のように日の目を見ない人もいます。そういう現状があることに気づいてほしいです。

防災カードについてですが、20年前にこれと同じ名刺サイズの電話番号入りのカードを作成しました。主にタイ人娼婦に配布するため、カードにお経を記載しました。タイ人は熱心な仏教徒が多いのでお経が記載されていれば捨てられる可能性が少なくなります。カードを配布するときには捨てられない工夫が必要だと思います。

外国人に関する課題を区政から国政に上げていく努力も必要だと思います。形にとらわれずに協力して本当に必要なことをしていきたいと思っています。

区 : 防災カードについては配布・周知方法を工夫していきたいと思っています。様々な意見をお聞きして今後も改善していきたいと思っています。

H : 今年度の分科会等の予定は決まっていますか？

区 : 今年度に関しては、ふれあいフェスタへの出展やパネル展等の事業、防災カードの配布や避難所の多言語表示についての検討などがあります。また、テーマ別の分科会は区から声をかけるだけでなく、参加者の方からも提案していただきたいと思っています。

A : 学習支援の話がとても参考になりました。最近は家族で来る難民の方が増えているので新宿区の学習支援のサポートを情報提供していきたいと思っています。

区 : 大久保出張所管内は外国人が多い地区であり、多文化共生がひとつの理念、理想となっておりますが、実際にはさまざまなトラブルもあります。これらの解決のためにはこのような会議にも積極的に参加して、皆様のお知恵を拝借したいと考えています。

H : 中越地震で何か情報提供できればお願いしたいと思います。

財団: このネットワークにも参加している NPO の方が本日から柏崎に行っておりま

す。ボランティア活動を行うとともに現場の状況を見てくるということです。帰ってきたら報告していただくことになっています。

区 : お忙しいところ貴重なご意見ありがとうございました。分科会から防災カードのようなすばらしいものができたことをうれしく思います。今後も様々な活動を一緒にさせていただいて、多文化共生が名前だけでなく、実質を伴ったものとしてさらに進めていきたいと思いますのでご協力お願いいたします。